

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。

今回は、「**アフリカ北東部で歴史的干ばつ！東南部では極端な大雨！**」「**3Dプリンターでプラスチック廃材をリサイクル**」です。

◆アフリカ北東部で歴史的干ばつ！東南部では極端な大雨！

長期的な干ばつが、アフリカ大陸北東部の、ジブチ、エチオピア、ケニア、ソマリアの4カ国を襲い、生活を支えている家畜が死に、農作物も大打撃を受け、**2000万人もの人々が飢餓貧困**にさらされている。こうした歴史的干ばつのその一方で、同じアフリカで、今年1月～2月に連続して5個の熱帯低気圧が南東部のマダガスカル、マラウイ、モザンビーク、ジンバブエを襲い、風と大雨で100万人以上が被災した。また4月には南アフリカでも洪水が発生した。

これらの災害の**原因はいずれも気候変動による**ものであるとの研究報告を世界気象機関が公表した。IPCCが公表した第3作業部会の評価報告書(気候変動の緩和)によると、2010年～2019年の温室効果ガスの排出量は史上最高レベルに達しているという事だ。「生存可能な未来」を確保するためには、温室効果ガスの排出量を**2030年までにほぼ半分**にしなければならないとのことである。にもかかわらず、CO₂の排出量は減少へと転じていないのが現実だ。

残された時間は少ない。私たち一人一人も危機感を持って温暖化対策に取り組んでいかなければならない。

◆3Dプリンターでプラスチック廃材をリサイクル

去る6月3日、プラスチックの廃材を原料に、3Dプリンターで家具などを作るリサイクルの研究拠点が神奈川県鎌倉市に開設され公開されたとの報道があった。

この拠点は慶應義塾大学と鎌倉市、それと企業などが地域におけるリサイクルの在り方を研究しようと開設したとのこと。細かく裁断したプラスチックの廃材を高温で溶かし、施設にある大型の3Dプリンターで製品に仕上げることができ、実際にベンチやプランターを作る様子が公開されたという事だ。

我が国における廃棄プラスチックはその**8割以上がリサイクル**されているというが、その**7割以上は欧米ではリサイクルとは認めていないサーマルリサイクル**である。製品へと生まれ変わらせる**マテリアルリサイクル**となると**2割程度**しかない。プラスチックのリサイクルは同じ性質のものでなければリサイクルするのが難しいと言われているが、今回報道されたものは、異なった性質のプラスチックでも可能なのか、問題はないのか、気になるころではある。いずれにしても、日本が抱えているプラスチック問題にとって明るいニュースである。引き続き注視していきたい。